

令和5年度 第4回ゼロカーボン研究会 事後調査報告

1. 調査概要

1.1. 目的

ゼロカーボン研究会に参加する自治体及び事業者等の研究会へのニーズを調査・分析し、岡山連携中枢都市圏、周辺自治体、事業者及び大学等と「ゼロカーボン社会」実現へ向けた“実現可能な事業創出”につながる研究会及び分科会を開催することを目的とする。

1.2. 実施日

2023年11月19日(日) 研究会終了後

1.3. 調査対象

令和5年度 第4回ゼロカーボン研究会の参加者 59名を対象にアンケート調査を行った。

1.4. 調査方法

アンケート形式は、用紙記入、web記入の回答方法とした。

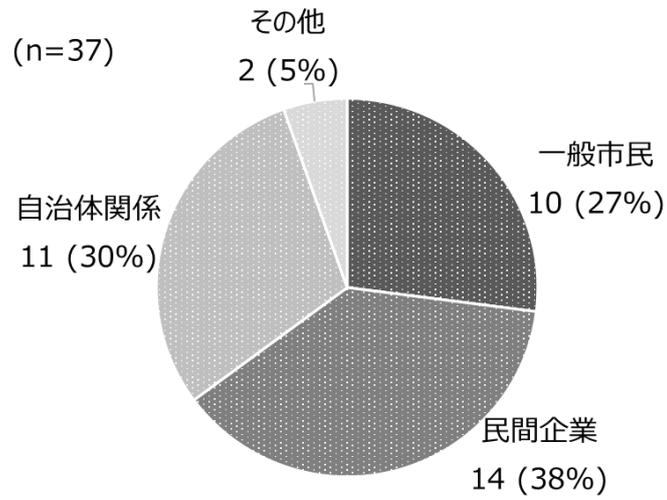
1.5. 回収状況

回答数：37件

回収率：62%

2. アンケート結果

1) アンケート回答者の所属区分

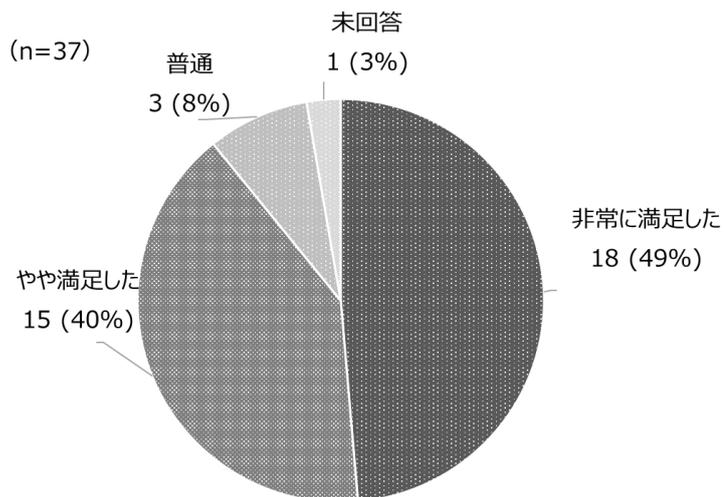


【その他の内容】

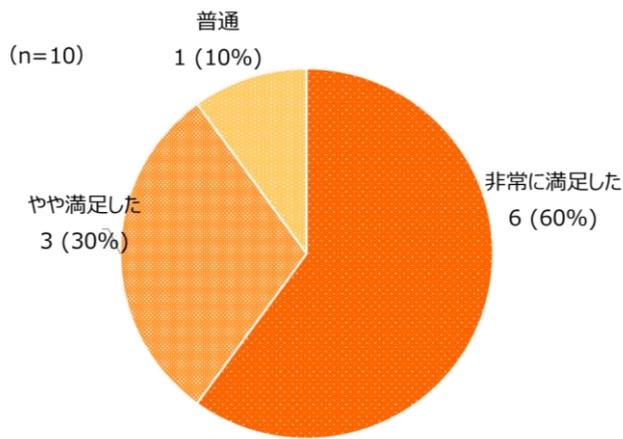
- ・ 財団法人
- ・ 未回答

2) 今回の研究会に対する満足度を教えてください。

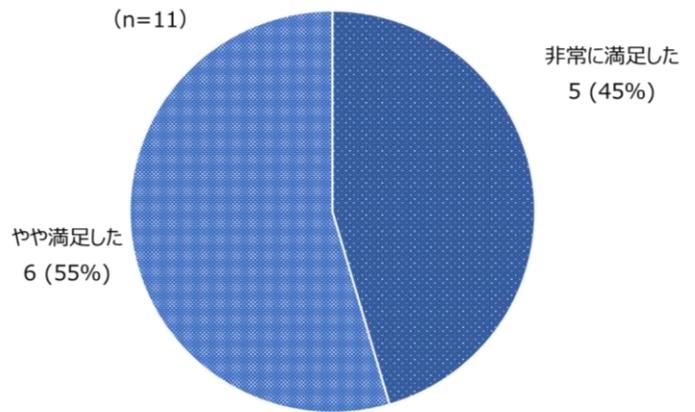
- 回答者の 89%が「非常に満足した」または「やや満足した」と回答した。



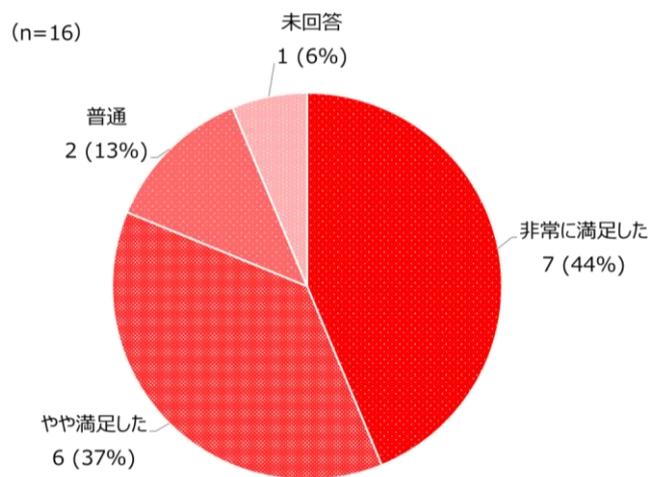
回答者：全体



(満足度) 一般市民



(満足度) 自治体関係



(満足度) 民間企業・その他

3) 4. でお答えいただいた理由を教えてください。

「非常に満足した」と回答した理由

- 企業だけでなく、市民の方も参加するパネルディスカッションが新鮮でした。
- 改めて何が出来るかを整理して考える機会になったため
- 市民の方の脱炭素アクションにつながるヒントをたくさんいただいた。
- 課題が明確になった
- 基調講演の内容が有意義であった為
- 様々な分野の取組を知る事が出来たから。
- 市民、学生、事業者、行政それぞれの立場からの意見を中上先生がうまくまとめられていて、とてもわかりやすかったです。行政の立場としてはどのように働きかけていくかが大切なことをあらためて認識しました。
- 脱炭素における市民・企業それぞれのパートがあることを知れた。
- 市民としての立場から脱炭素に向けて何が出来るのか考えるきっかけになった。
- 自治体、民間企業、学生、市民の色々な方の脱炭素についての考え方を知る事が出来て、有意義でした。

- 中上先生のお話しがとてもよくわかり有意義な時間を持てたから
- 中上先生の講演が良かった。
- プログラム各々が思っていたより深く・わかりやすく、充実した内容であった。丁度よい事業、研究会であった。
- 脱炭素、低炭素への理解が深まり、勉強になりました。エネルギー貧困への対処をどう行っていくべきか（供給サイド）考えさせられました。大変勉強となりました。
- 家庭や市民として参考になり、取り組めるような内容だった。
- 新しい視点での知識を得ることができた

「やや満足した」と回答した理由

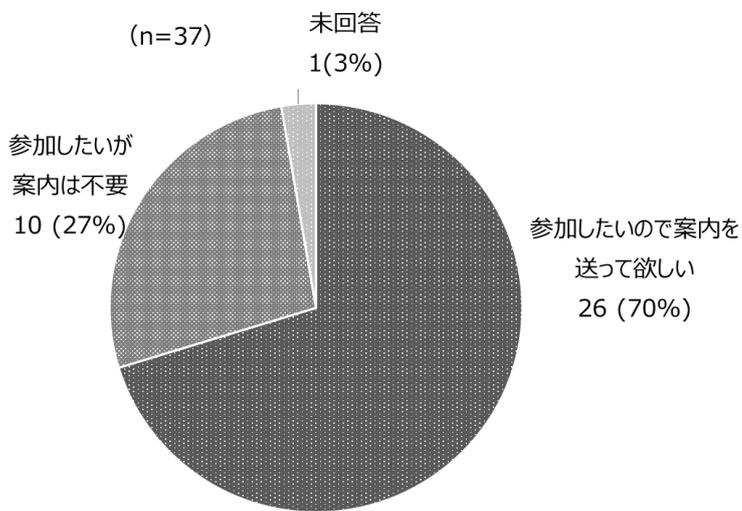
- 当初環境問題の一角程度に考えていましたが、その中身(脱炭素、低炭素へ向けた取り組みの方法)が色々あることを知れたのが為になりました。
- 様々な立場の方からの意見が聞いて参考になった。
- カーボンニュートラルは、私たち人間の将来のくらしだけでなく地球上の生物多様性にも多大な影響があることに全く言及されなかった(両備小山様が意見交換で一言触れただけ)のは、将来の子どもにどんな環境を残すのかを考えるためには非常に重要な要素だと考えます。それを無視して脱炭素だけを見ようとするので、我が家の損得勘定が前面に出てくるのは当然のことではないのでしょうか。
- カーボンニュートラルに向けての課題が明確になった
- 西田さんの市民視点よかったです！
- 中上先生のご講演をもっと聞いてみたかった。
- 意見交換で様々な立場の方の意見が聴けて良かった。特に市民・大学院生の方は貴重な意見だと感じた。
- 中上さんのわかりやすい講演 ・パネルディスカッションも各人の本音が聞いてよい機会であった。
- 脱炭素について大きなテーマで話すのではなく、身近なことから考えるテーマでのアプローチは良いと思った。
- 中上さんの「Fuel Poverty」の考え方は知らなかったので興味深く聞いた。
- 色々な分野の方のお話をきくことができました。
- 「脱炭素」に関する着眼点、自らが出来る事について考えるきっかけとなったと思う。
- 中上さんの日本と海外を比較した内容など更にお話を聞きたいと思いました。・脱炭素やSDGsにしても地域の行動変容を求めることが必要だが難しいということなど

「普通」と回答した理由

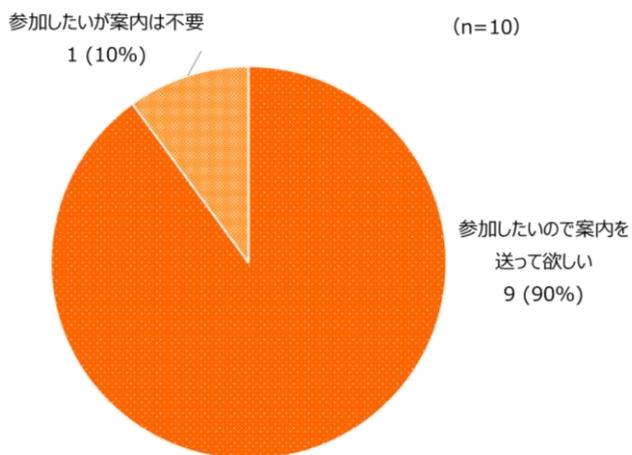
- 本研究会はゼロカーボンに向けた啓蒙活動をするところであることを認識しました。
- まとまり、方向性を示してもらえたらと思いました。
- 一般的な物ばかりで今後のゼロカーボンの取組がなかった

4) 今後も、脱炭素化の取組みを推進するためのイベントに参加したいと思いますか？

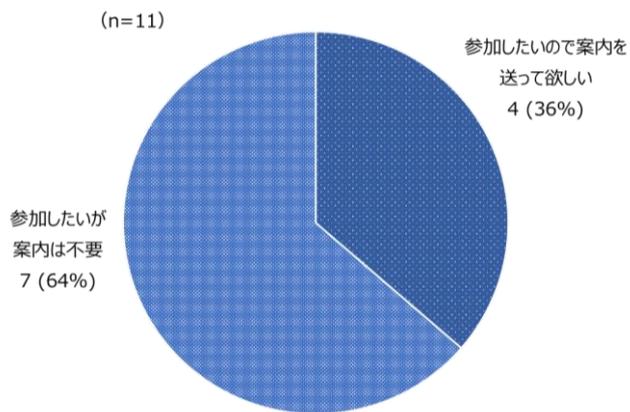
- 回答者の多くが今後も脱炭素化の取組みを推進するイベントに参加したいという意向を示している。



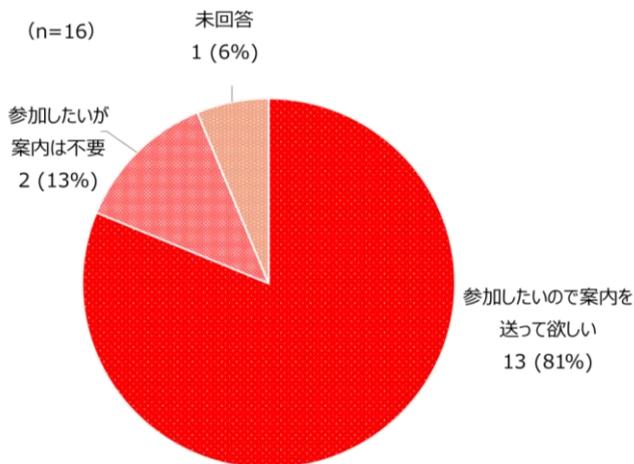
回答者：全体



回答者：一般市民



回答者：自治体関係



回答者：民間企業・その他

- 5) 今回のテーマである家庭・市民の脱炭素化に向けた取組に関して、ご意見や、アイデアなどがございましたら、ご自由にご記入ください。
- 本日講演いただいた内容が悪いわけではなく、その内容を市民にいかに浸透させるかが問題に感じます。要は「当事者意識の欠如」が大きな問題であると感じます。
 - 「私の脱炭素」アイデア募集
 - 行動変容を促すきっかけ作りが重要。補助金だけでなく、市民が取組む好事例の発信や市民(特に学生)参加型のイベント等によって幅広く周知して貰いたいです。
 - 若者への啓発として、中高生への環境学習が必要だと思います。そこに地域の企業が関わる仕組みがあればと思います。あと、知られていないと言うとき、何が情報として知られていないのかは明確にしなければと思いました。本日も知られていない何かは明確に定義されてなかったようなのでそこがあるともう一步踏み込めた気がします。
 - 今回と同じ様に、様々な立場の方がディスカッションする場を継続的に設けることで、具体策が出てくると考える。
 - 岡山市さんと協働製作の環境家計簿カレンダーを活用した市民向けの学習会(山上氏が言及した町内学習的な場)を数多く実践することが、脱炭素や省エネや断熱性能の意味を理解浸透させるためにも重要だと考えます。
 - 昨今の情勢に対し家庭、市民の現状が見え勉強になった
 - 行動変容に繋がるインセンティブを意識した情報発信
 - 知る化 見える化 自分事化 様々な目線での意見が重要
 - 岡山県と岡山市ではもう少しベクトルをあわせて予算付け、方針を共有してもらいたいと思います。
 - 各自の消費行動を変えることが重要と感じている。(エコな商品や会社の商品を購入する)。事業者としては、消費者の意識をどのように変えていくかが課題
 - ヒートポンプ関連、エアコン、太陽光パネルに補助金をつけてはいかがでしょうか。・DXに取り組む民間事業者に減税対応して欲しい。
 - SDGs カードゲーム「Get The Point」(対象小3~大人まで)を私自身できますので、何かイベントがあれば参加したい。みんなでゼロカーボンを解決したい。
 - 「自分事」と一口に言っても、ヒトによって軸が様々あると感じる。経済的なベネフィット・コストだけでなく、子育て等対象者を狭りつつ、それぞれが関連づけられる取組を期待したい。
 - 岡山市は街の規模の割に車を使う人が多いように思います。(渋滞も多い)公共交通機関をもっと使うような取組みを推進してほしいです。
 - 電力使用量の他の家庭との比較がわかると節電につながると思います。先輩の方は新聞を読まれていると思うので新聞で引き続き脱炭素について記事にして頂きたい。ただし出来るだけわかりやすい内容でお願いしたい。

- 主婦をターゲットにポイント付与制度
 - 国が物価高騰対策で色々行っているのですが、それをやめて現実を認識して脱炭素を考えるべきか（物価高騰、電力、ガス価格高騰）・身近なところと、世界のところとの差が大きいのですが自分ゴトにいかにしていくか。
 - 今回の後援会、研究会の企画について、岡山市環境局、担当課（ゼロカーボン課）、頑張っているなど感じた（1市民としての意見です）。民間（両備、山陽新聞）も頑張っていると思った。（もっと広く、広報をしたらよいのに、と思います）⇒脱炭素実践
 - 具体的な案は出ていなかったが、生活の中から考えていきたいと思った。
 - 行動変容を起こす手法として鎌倉市が行っている地域ポイントを活用してみるのもよいのではないのでしょうか。
 - SNS の活用
- 6) 今後、開催して欲しい脱炭素化に関するイベントや取組などについて、ご意見や、アイデアなどがございましたらご自由にご記入ください。
- 脱炭素は私たちの生活水準をどう変えるの？（変えないの？）
 - 人口の少ない中山間地域は出すより吸収量の方が大きいので、ゼロ理論が伝わり難いので田舎の脱炭素をテーマに出来たら良いと思います。
 - 対象業種を絞り込み、脱炭素をより一歩掘り下げたセミナーを開催して欲しいです。
 - 本日は貴重なお時間をいただき、改めてありがとうございます。
 - 日本の家庭部門での消費エネルギー量（一世帯あたり）の多寡と、二酸化炭素排出量（一世帯あたり）は、家庭部門でのカーボンニュートラルを目指すという目標を論ずる際には次元が違うので、消費エネルギー量が諸外国に比べて少ないことを取り上げることによるミスリードにならないように伝える必要があると考えます。日本のオーバーシュートデー（5月6日）であることを考慮した気候正義の視点に立って、家庭部門で出来ることを各人が考える必要があると考えます。”
 - このような開かれた場を継続して作っていただきたい
 - 意見交換会の定例化
 - 脱炭素を進めている企業との交流ができる会
 - 勉強になりました！ありがとうございました。企業のとりくみなどとりあげていただけると幸いです。
 - 今回のイベントは平日ではなく休日に開催した方がよい。一般の市民が参加しやすい方がよい。
 - 地元企業の脱炭素の取組み事例を知ることができる。（マネしてもらえるように）市民向けへの施策（補助金など）の紹介や市民の脱炭素への取組むメリットを知ってもらう。

- ライブ配信もしくはテレビでの放送など
- 何かの行事の時に一緒にやる
- 講演会の実施・各イベントでの「脱炭素化」ブースでの広報、体験企画
- 今回の話をもう少し深掘りしたような内容。

以上